

令和7年度岐南町・笠松町総合教育会議 議事要旨

令和7年5月16日（金）午前10時30分から、岐南町中央公民館 学習室で開催した。その要旨は次のとおりである。

1 出席者

岐南町長	後 藤 友 紀		
笠松町長	古 田 聖 人		
教育長	野 原 弘 康		
教育委員	岩 井 弘 榮	教育委員	羽田野 正 史
教育委員	久 納 万 里 子	教育委員	佐 藤 由 香
岐南町副町長	傍 島 敬 隆	笠松町副町長	村 井 隆 文
＜羽島郡二町教育委員会＞			
総務課長	岩 田 由 美	学校教育課長	宮 川 浩 司
社会教育課長	永 瀬 直 哉		
＜笠松町＞			
教育文化部長兼課長	天 野 富 三	教育文化課主幹	朝 日 英 司
＜岐南町＞			
こども未来部長	三 輪 学	こども学び課長	森 俊 文
こども学び課主査	山 田 香 里		

2 次第

(1) あいさつ (岐南町長 笠松町長)

(2) 議題

- ・羽島郡教育 DX の展望について (二町教育委員会)
- ・意見交換

(10 時 30 分開会)

○事務局 こども学び課長

おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから令和7年度岐南町・笠松町総合教育会議を開催いたします。

本日はお忙しいところ、本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日、司会進行を務めさせていただきます、岐南町役場こども学び課長の森と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様方のご協力により円滑に会議進行ができますよう努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。また後ほど、皆様からもご意見をいただきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

これより、着座にて進行をさせていただきます。また、本日お集まりいただいております皆様のご紹介につきましては、お手元の資料の出席者名簿と机上の名札に代えさせていただきます。また、会議中、記録用に写真撮影をさせていただきますことと、議事録作成のため、ボイスレコーダーにて録音させていただきますことをご了承願います。それでは次第に沿って進めてまいります。

はじめに、幹事町であります岐南町長がご挨拶を申し上げます。

○岐南町長

皆さんおはようございます。本日はご多用の中、総合教育会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本会議は、子どもたちの育ちや学びに関する町の方向性を、町と教育委員会がしっかりと共有して、ともに考えていく会議となっております。地域社会の一員として、行政も教育も目指す先は共通しています。それは子どもたちの未来をより良くすることだと考えています。今、教育を取り巻く環境は大きく変化をしています。家庭の形や地域の繋がり、価値観の変化など、そういう中で子どもたちが安心して学んでいけるように、健やかに成長していける社会をどのように作っていくか、大人である私たちの責任が、これまで以上に問われていると考えておりますし、本日の議論がより実りあるものとなり、子どもたちの笑顔に繋がる一歩となりますように、心から祈念申し上げます。また、岐南町の今年度の取り組みについて少しお話をさせていただきたいと思っておりますが、今年度は第2次G I G Aスクール構想に基づいて、岐南町といたしましては5年リースによる、児童生徒、教職員用のi P a dを今月中に調達して、10月1日より利用開始できる予定となっております。また、現行の通学安心システムという制度がありましたが、システムの変更に伴いまして、新しいサービスを開始する予定となっており、リアルタイムで位置情報が確認できますGPS機能を利用したサービスへ6月から移行して、登下校時や日常生活において、児童及び保護者が安心して生活できる環境を整備する予定となっております。また、子どもの居場所事業で、子どもたちの育ちを地域で見守っていきたいと思っておりますので、家庭、そして学校、その第3の居場所としての「子どもの居場所づくり」、このようなこともしっかりと進めてまいりたいと思います。委員の皆様には是非、今後の岐南町の教育についても、ご意見をいただきますことをお願い申し上げまして、私の挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。続きまして、笠松町長からご挨拶をいただきます。

○笠松町長

改めて、おはようございます。平素は、羽島郡の教育、子どもたちの人材育成に多大なるお力添えを賜りましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げたいと思います。ここ数年、皆さんも肌で感じていただいていると思いますが、世の中が非常に目まぐるしく変わっているというより、流動化していて、軸足がないような感じがしてなりません。最近もトランプさんの政治に振りまわされている状況ですが、一方、これもよく耳にする多様性とか、ダ

イバーシティとか、そういう言葉が何でもかんでも多様性で、日本は全然多様性ができてないからってような意見を、いわゆる専門家とか行政とか政治家がやたらと口にしますが、実は最近読んだ本で、松岡正剛先生という、日本文化の研究所の方がいらっしゃる。もうお亡くなりになられたんですが、その方が、「日本という方法」という著者の中で、こんなことを言ってます。「日本は昔から一途な多様性の国である」と。これはどういうことかという、皆さんちょっと振り返ってください。日本に、神様がどれだけいらっしゃいますか。よその国だったら宗教戦争が起きるなど、本当に骨肉の争いとなりますが、日本の皆さんはお寺に行けばお賽銭を投げるし、神社にも行くし、クリスマスはしっかり祝うということで、非常に柔軟性があると思います。一方で、政治を見ると、武家社会であったり、天皇中心であったり、そして、戦後は民主主義になってきたということで、いろんな時代の流れの中で、それぞれ柔軟性で多様性になり、なおかつ、この国というのは、世界で一番古い歴史であるというような天皇陛下を中心とした場合に、もう紀元前の頃からそういった歴史が続いているということで、もともと日本は多様性の国だったと。なぜ今、多様性が問われてるかという、日本らしさ、日本が誇るべきものが欠けているから、海外の国も外来的な、そういうエッセンスとか、そういう考えを取り込むことが然も新しいもの、いいものだということで、自分たちの足元を見失ってるんじゃないかと思います。そういうことで、笠松町では、私自身に言っているかもしれませんが、今、原点回帰ということで、端的に言うと、中学生や小学生の皆さんにお祭りに参加していただいたり、或いは、ボランティア挨拶運動も含めて積極的に参加してもらったりすることで、地域の中で、やはり自分たちの町の良さや、地域の皆さんと一緒に関わることの大切さを学んでもらおうと。なぜ中学生や小学生かという、その親世代というのが、町内会活動とか或いは地域の催しに足が遠のいて、どちらかというと町の中に入ってくれというと「メリットはなんですか」というような、考え方が凝り固まっているという、人に言わせるとなんか自分勝手なところも出ているのではないかと。だから今の中学生や小学生が地域に溶け込んでいろんな活動してもらうことによって、親の世代、お父さんお母さんたちに、お祭り楽しかったよとか、ボランティアでごみ拾い・挨拶運動したら、近所の人たちが「うん、頑張ってるね」「ありがとうね」って声をかけてくれたと。そういうことを通して、地域をもう1回つなぐ、子どもたちの役割、教育っていうのは、そこが原点ではないかと思います。そこを親世代と年配の方そして子どもたち3世代をつなぐ、そういった役割というの、これからの教育にますます重要であり、それが原点回帰であり、日本が今なくしているものを取り戻すためにも、どんどん子どもたちの意見を取り入れて、そして子どもたちに頑張ってもら。これもまさに笠松町が制定している「こどもの権利条例」の大きな実践ではないかということで、形にはならない、或いは学校の成績で点数はつけられないんですけど、そのようなことを、できることなら羽島郡も一緒になって取り組んでいきたいと。いろいろ熱い思いを語りましたが、本当に今の日本に欠けている、これからの地域社会、或いはこの羽島郡の発展においてやはり心の問題という、哲学とか、歴史とか、そういったことを学び直さないと。表面的なことばかり言っていったら、いつか子どもたちに見透かされて、またしつぺ返しがくるんじゃないかという危機感を持ちながら、これからは取り組んでいけばいいなと思っております。取り止めのない話でございますが、本日はよろしくお願いします。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。それでは本日の議題に入らせていただきます。本日は羽島郡教育D Xの展望についてということで、羽島郡二町教育委員会学校教育課 I C T支援専門員の林様にご説明いただきます。どうぞよろしくお願いします。

○ I C T支援専門員

昨年度より、I C T支援専門員として働かせていただいております。林明彦です。どうぞよろしくお願いいたします。二町教育委員会では岐南町、笠松町において整備されてきた I C T環境を生かし、子どもたちの学習の充実と教職員の質の高い働き方を実現するための施策を講じています。

今年度より始まる、1人1台端末。それと、来年度からでございますが、次世代の校務支援システムの更新を機に、さらなるセキュリティ対策が必要だと考えています。この内容を30分弱のお時間をいただいて、お話をさせていただきます。題目は、「羽島郡の教育D Xの今後」です。

教育D Xの一番の狙いは、学習の充実です。文部科学省が公表している動画で具体的なイメージをご覧いただきたいと思います。6分ほどになります。

説明略 （別紙「羽島郡の教育D Xの今後」参照）

「自走」というふうに言ってますけれども、タブレットを活用することで、子どもたちが主体的に学ぶ授業を実現できている。そういった事例をご覧いただきました。教師が教え込むのではなく、子どもが主体的に学び、深めていく、そういった授業への転換を I C T環境が実現させている。これを羽島郡で進めていきたいというのが第1の狙いです。第2の狙いが、教職員の働き方の質を高めることです。校務D Xについても、動画をご覧ください。

説明略 （別紙「羽島郡の教育D Xの今後」参照）

すべての教職員の働き方の効率がアップすることで、質が高まり、子どもに寄り添う時間と心の余裕が生み出せる。それが2つ目の狙いです。この2つの狙いを実現した学校を目指しています。

では、狙いに迫るために、まず、どんな I C T環境が整っているのか。何がさらに必要なのかお話をしたいと思います。まず学習の充実についてです。動画で紹介された、「他者参照」というのは、子どもが自身の考えを記述する過程で、随時、他の子どもの考えを参照することです。これによって考えを形成しにくい子どもは、他の子どもの考えを参考にすることで思考を開始できます。また、他の子どもの考えを参照して、疑問が生じた場合に、意見交換を通じて、自分の考えを修正したり、より深く考察したりすることが可能になってきます。タブレット導入によって、意見をリアルタイムに共有できる機能を活用し、子どもが自身の考えを参照し、筆記できるようになってきた。その成果として、この、右の下の写真の

ように、1時間の授業での意見のアウトプット量が格段に増えてきているという事例も公表されています。このように、子ども主体で深い学びが実現できるのではないかと期待できます。このような学びを実現するには、タブレット以外にも、環境整備が必要です。アプリケーション、クラウドサービス、そこにつなぐインターネット、Wi-Fiなどです。実際に、この場でお見せできるといいのですけれども。この子が意見を入力しますよね。そうすると、このアプリケーションを通じて、インターネットそしてクラウドサービスに保存されます。それがもう隣の子のタブレットにも、瞬時に表示されてということが可能になってきます。整備していただいた、これらのアプリケーションは、常にクラウドに保存されることが前提で作られておりますので、履歴の保存が可能になっております。1人1台端末においては、先ほど町長さんがおっしゃいましたけども、iPadに変わります。これまでのWindowsタブレットでは、起動や動作が遅いために、瞬時に共有することには非常に難があったんですけども、これが軽快に動いて、容易になるはずですよ。それから、リアルタイムの共有が実現するには、高速インターネット回線が施されていることが必要です。岐南町においても、笠松町同様の環境を1ギガ回線の導入の予算を確保していただきましたので、大幅に向上して、学習機能も確実に保存されるようになることと期待しているところです。もう一方の、質の高い働き方の実現についてご説明します。文部科学省は、教職員の負担軽減と、より効率的かつ質の高い業務が遂行できるように、次世代型の統合型校務支援システムの導入を全国に推進しています。そのことを、1枚のペーパーに表わしているんですけども、以下の3点が求められています。第1に、学習状況や、出欠状況や相談履歴などの情報をすべて集約して分析し、グラフ化して、必要な情報を一覧で表示するダッシュボード機能を備える。それから2つ目に、校務支援システムを職員室に置いてある校務PCだけではなく、タブレット端末でも使えるようにする。第3に、校務支援システムを学校外や研修会場など、場所を選ばずに利用できるロケーションフリーにする。これらの機能によって、子どもの頑張りを適切に評価することができたり、支援が必要な子どもを早期に発見できたりすることで、いじめや不登校の未然防止につないでいくということです。これに関する動画は、これから始まる内容ですので無かったんですけども、教職員の負担軽減を実現できますよって話と並行して、この次世代型の校務支援システムを使うことで、子どもと向き合う時間を確保し、子ども理解のための情報を効果的に活用できるような環境を整備することが重要だと。現状のように、学習系のネットワークと校務系のネットワークを分断した状況では、データを一元化して集約することは困難です。そうなるとタブレット端末で校務支援システムを使うことも、このままではできないんです。そこで、このゼロトラスト型セキュリティモデルを採用したネットワークを構築することが、必要ですよと言われており、一人ひとりが端末にアクセスするユーザーの本人確認を厳格にしていく、という形にしていって下さいということになっています。来年度から導入することになっている校務支援システムをクラウドで動作することが前提です。これまで以上に多くのデータがインターネット回線を使って送受信されるという状況になっています。校内のWi-Fiも、インターネット回線も増強していただいておりますけども、今後さらに増強するということが必要になってくるかもしれない。実際にやってみないと分からないんですけども、そのようなことが懸念されてますので、ご承知おきください。また、多要素認証につきましても、今度導入

していただく予定でP Cにインカメラをつけたものを、今、設定してくださっているので、顔認証が可能になるため、その点は大丈夫です。さらに、ゼロトラストセキュリティを強化するために、教職員が扱うデータに対して、機密性を制御できるアプリケーションが必要だと考えています。具体的には、現在利用しているマイクロソフト 365、ワード、エクセル、パワーポイント、Teams とかですね、そのライセンスを、A3からA5にアップグレードしていただくことが一番いいのではないかなと、いろんな資料を見て考えています。これによって何ができるかという、教職員が作ったデータを、同じテナント内にある児童生徒の端末でファイルを見れたとします。しかし、それをクリックしても児童生徒の端末では開けられない。という、秘密度ラベルっていう機能があります。それだけではないですけど、それらの機能によって、情報漏えいなどのインシデントに繋がることを防げる、こういった機能が必要不可欠である。まず、環境の整備について、これまで進めていただいていることと、さらにお願ひしたい。という話をさせていただきましたが、整備するだけでは目指す学校像は実現しません。教職員が目指す学校像を頭できちんと描いて、I C T環境を適切に活用していこうという意味が大事だと思います。そこで、次のような施策を講じています。左から、1人1台端末の貸与にあたって、教職員向け、子ども向け、保護者向けにガイドブックを今、作成しています。ガイドブックにはなぜ貸与するのか、その目的、端末にはどんな機能があるか、学習のためにどのように活用できるか、安全な利用のためのルールとして児童生徒を守るために大人が留意すべきことなどを記載しています。8月頃に、i P a dの設定を開始できる予定ですので、保守業者と各町の教育行政担当者と共にどういう設定にしていくのがいいのかというところまで考えてるんですが、最終的なところをきちんと決めていきたいと思います。それに基づいてガイドブックの最終的なところを完成していきます。それから、私自身がT e a mを作成して、全部の教職員に最新情報を提供し、それを使って研修していただきたいと思います。先程お見せした動画のいいものをご紹介します。また、T e a m sを使って教職員からも要望いただいたりとか、ご質問いただいたりして、早期対応を行っております。また、現場からの要請に応じて、授業の準備の支援、授業そのものの支援、授業研究会での助言などの支援を行っております。また今年度は、各学校から1人ずつI C T推進員を集めて会議をしているのですけれども、そのメンバーに対して、3回会議を行っておりますが、さらにT e a m sでその間をつないで、各自が学校できちんと推進ができるような下支えをしていくような活動にしていきたいと考えております。近年、新入社員が、業務を遂行するにあたって、詳細な手順やルールが記載されたマニュアルを必要とする傾向が見られると聞きます。自分の経験や、これまで蓄積された資料から必要な情報を自分で読み解いて、解決していくのではなく、分からないことはすべて教えて欲しい、教えてくれないのは不親切な上司だというふうに考えるそうです。自ら課題を発見し、様々な手段を用いて試行錯誤しながら、粘り強く解決策を見いだすような人材を育成していかなければならないと強く感じます。子ども主体で仲間と協働して考えを深める営みということが、小学生段階から必要だと考え、先生方に支援をしていきたいと思っております。我々が目指す学校像の実現に向け、今後も現場への支援に尽力して参りますので、I C T教育環境の整備への継続的な財政支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 こども学び課長

先生ありがとうございました。ただいま羽島郡教育DXの今後についてということで、林先生の方からご説明いただきましたけども、皆様にもご意見をお伺いしていきたいと思います。DXによる教育に関するご意見だけでなく、町の教育への願いとかでも構いませんが、順番にご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いします。それではまず教育委員さんの方から順に意見をお伺いしていきたいと思いますので、まず、岩井委員さんの方からお願いいたします。

○岩井教育委員

教育委員の岩井です。まずDXについてですが、実は私も岐南町で多数の会議に出ています。ほとんど紙ベースの会議ばかりです。1回だけ笠松町で、1人1台端末の会議に出させていただきました。それを象徴するかのように、まだまだこのDXは、学校業務も含めて進んでないというのが実態だろうと思います。これから急速にキャッチアップするのではないかなと思います。世の中、多分、企業でも端末で会議するのは当たり前になってきている時代だと思います。そういうのは時代背景としてあるんだなと思います。それとは別に、若干教育的な話をしますと、町長さんもおっしゃられた通り、地域が大きく変化しました。長い間、教育委員会や教育に関わっておりまして、子育てというのは、家庭と学校、それから地域、この3つが三位一体でやれることが子育てという昔から言われているんですが、どうもその中で一番大きく変わったのは家庭であり地域社会ではないのかなと思います。その後の反動として、いろんな教育関係の話が全学校に大きく負担になってきているというのが今の実態ではないかなと思います。冒頭の話でもありましたように、コミュニティを再生するのはなかなか難しいとは思っています。ただ、いろんなことで停滞したといいますか、バラバラになりつつある地域社会はやはり再生していかなければならないのかなという気がしてなりません。子どもたちは、家庭に帰れば、今のお父さんお母さんの考え方を持って育ってますし、地域社会のこういった中でやはり僕も生きてるわけです。いろんな意味でこの経験をたくさん受けているはずで。それはやはり、地域社会そのものを何とか変えなくてはいけない、時代にあったものにしないといけない。江崎知事の言葉ではないですが、ワクワクドキドキするような地域社会の創生というのは私やはり不十分ではないかと思います。それと、学校と地域或いは児童生徒と地域のことを考えますと、今まではどちらかというと、学校でできない、マンパワーでできないような部分を地域に手助けしてもらおう。或いは、地域から頼まれてお手伝いするとか。ちょっと言葉に語弊があるかもしれませんが、極めて受動的な関係がまだまだ主流だったのではないかなと思います。やはりこれからの時代、学校や児童生徒において、自分たちが地域にとって何ができるんだ、ということをやはりアクティブに働きかける時代が来ているのではないかなと思います。そのような取り組みを、やはり学校、或いはその児童生徒もこれからずっと進めていただかなければいけないかなと思っています。親の姿、人の姿を見て子どもは育つと言いましたけれども、子どもが変われば、親が変わるのではないかな。そういう一抹の期待を抱いています。そんなことで学校の教育だけではなく、広範な問題の結果として今があると思っています。そういった意味で、もう一度地域社会というものを再生するというのを、行政を含めていろんな意

味で進めていただけたらなと思っております。ありがとうございました。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。続きまして久納委員さん、よろしくお願いします。

○久納教育委員

教育委員の久納です。よろしくお願いします。まずDXに関しては、今の林先生からのお話しで、子どもが主体的に学びを深める授業という、学習の充実を進めることができるというので、他者参照による学びの進化というか、他の人の意見を参照しながら、自分の考えを高めていくことができるっていうのは、大変すばらしいし、進めて欲しいなと思いました。今、子どもたちが、高校受験とか大学受験をするうえで、受験の内容も変わっておりまして、ただ問題を解くとかではなくて、これについてどう思いましたかとか、あなたの意見を述べなさいというような問題が大変増えておりますので、そういうことに対応するためにも、そういう自分の意見をきちんとアウトプットできるトレーニングというか、そういう学びができていいなと思いました。あと私も岩井さんと同じような意見になると思いますけど、ふるさと教育の充実が大事だと思ひまして。今、若い女性の県外流出ということがすごく問題になっていて、働き場がないということも言われているんです。私と同じ世代の同級生もほとんど笠松町や岐南町にはいないですし、都会に住んでる人が多いんですけども、その人たちが、ふるさととの繋がりは何かと言ったら、親の介護が終わり、家だけが残っててその空き家を処理するときに、何十年ぶりかで笠松に帰ってきたり、お墓だけが残った状態で帰ってくる人が多くて。その時に、同級生だった方が、「50年ぶりだけど覚えてる？」とか、急にちょっと言われても困るなと思ひながら、自分の親も住んでなくて、お墓とか家の処理に来て、他に寄るところがないからうちに来たっていうような感じで来る人が多いんですけども、そういう人たちと話をしても、決してそのふるさとの笠松町とか岐南町のことを嫌いになったとか住みたくないと思ってるわけではなく、機会がなかったということもあります。ただ、愛着はすごく持ってる感じがあります。あと、私の周りで一旦、県外を出ても、戻ってきた人とか、私も含めてですけど、やはり外に出たときに、そのふるさとの良さをすごく感じて、別にその都会で暮らす必要はない。むしろ笠松町で暮らした方が、経済的にも、精神的にも豊かな生活が送れると。私は今、笠松町に住んでおりますけれども、昔を振り返ったときに笠松で学習して、決して都会の子たちと学習の機会とか、質が劣っていたことはないというように、自信を持って言えるので、今の子どもたちにも、十分な学習の場も与え、あとは地域との繋がりの場を、行政と教育の現場が一緒になって提供すれば、子どもたちはふるさとに対する愛着は残して、一旦県外に出たとしても、繋がりはずっと持ってくれると思うし、また戻ってきてくれることも多いと思うので、ふるさと教育っていうのは欠かせないなと思ひています。

以上です。

○羽田野教育委員

失礼します。教育委員の羽田野です。まず、DXのお金はかかると思いますがやはり、こ

の時代、I T、I C Tの機械を使いこなすためには、きちんとした環境を整えていただく必要があると思います。だから、財政の方よろしくお願ひしたいと思います。あと、ふるさと教育ということについてですが、私はもともと岐南町の出身ではなく、結婚してからこちらでお世話になっているので、2人の委員さんがお話しされた状況とは違うんですけども、私自身、働いていたときは、全て女房に子ども達のことを任せて、育児もせずに仕事ばかりやってきました。退職してから、羽島郡のために、スポーツ協会の会長や、教育委員、自治会会長もやらせていただいて、今の小学生、中学生、地域とかと関わりを持って教育していくことは非常に大切なんだなということを、本当に感じております。

それと、先ほど古田町長さんが言われたように、日本は外国の方から言われたことを非常に強く受けとめすぎて、日本の良さをもっと言えばいいのにと、つくづく感じています。

日本の良さをもっと、P Rすればいいのではないかなと思いますし、海外に旅行客がいっぱい来ているのは、そういう意味で来ていると思います。

日本の良さを、外国人の方が知って日本へ来て、分かってくれているのではないかなと思っています。子ども達にもふるさと教育をして分かってもらって、その中に、羽島郡だけではなく、日本という素敵な場所でそういう教育をしていけたらいいなと思っています。

そういうことで地域との関わり、そういう活動を実際私もしていますので、子ども達とそういうところで接することで、元気をもらい、活動をさらにやっていこうという仲間たちもいます。そういう意味で、40代の仕事をしている人たちにそれを求めても難しいと思いますので、かなり高齢の人が多いと思いますけれども、そういう人達を活用して、若い人達・子どもの親たちも巻き込んで、地域活性化に努めていただきたいと思います。

以上です。

○佐藤教育委員

教育委員の佐藤です。よろしくお願ひします。3点、私はお話しさせていただきたいと思っています。

1つ目は保護者としての視点でお話をさせていただきます。このI C Tが進むことは大変素晴らしく、吃音がある子は、人の前で発表することがとても苦手です。ただし、このタブレットを使った課題では、自分が得意なことは先ほどの共有画面に出すことができるので、その子は、理科についてはもう絶対誰にも負けないというぐらいすごく大好きで、いろんなことを知ってるかなと思うんですが、そのようなことをどんどん書き込むので、それでみんなが「うわ〜、〇〇君、すごいね」と褒めてくださったり、先生がそのことを直接評価してくださったりしている状況であります。それはタブレットがなければできないことだと思うんですね。ですから、このタブレットの存在というのは、保護者にとってありがたいです。

2つ目は、私、郡内の小学校で非常勤講師をさせていただいておりますので、その視点からちょっとお話をさせていただきます。先生方は1人1台タブレットをお持ちなんですけれども、私ども非常勤は持っていません。みんな1台あるのかもしれないですし、1台を貸し出し用として専用で使ってもらってる教科の先生もいらっしゃいますが、私と同じ教科のもう1人の先生は持っていません。私は音楽なんですけれども、音楽科は特にすごく有効なんです。楽譜が読めない子は、自分の音楽を作っても、それが自分で演奏してどう

なったか分からないので、とてもタブレットを有効的に使えるので、ぜひ、非常勤講師にもお願いしたいです。音楽室には映像を映すスクリーンありませんので、それもタブレットと一緒に用意していただくと大変ありがたいです。

3点目お話をさせていただきたいのは、教育学部で指導している大学の非常勤としての視点なんですけれども、このICT教育、もともと北欧が先陣となって進められてきて、100%近いところまで進んできたと思いますが、この二、三年、それを維持する評価と紙ベースに戻そうということと、2つにはっきり分かれて進めているというような研究結果をつい先日見たところなんです。

大学は、現場でもデジタル教科書を利用しており、すごく有効である。これについては実際物を使うことに対して、向き不向きと申しますか、そういった場面があると思うので、両面必要だと思うんです。

例えば今お話にあった岐南町も笠松町も一緒に、見えるようなシステムで共有できるようになると、同じ専門の先生方が、これはすごくよかったけど、実際やらせたほうがいいという情報が回れば、子どもたちに良い教育ができるかと思うので、大変ありがたいなと思っています。具体的には、先ほど申し上げた、子どもたちが自分で曲を作るという授業で、リズムに楽器を当てはめても、子どもたちは自分でその演奏がどのようになるか分からないんです。それをタブレットに入れば、タブレットが勝手に完成した演奏を流してくれます。だけでもその先、実際に楽器を使って、友達と曲と一緒に合わせてみようと思うと、やはり本当の楽器がいるんです。それを使って次は、実際にそれを自分で演奏できるような力を身につけさせるところまでがやはり教員の仕事だと思っています。そのため、タブレットのことも進めていただきたいと思いますし、音楽で言えば、その現場に楽器なども必要になってきますので、両方進めていくのは大変ですけれども、ぜひお願いしたいと思っています。

以上です。よろしくお願いします。

○ICT支援専門員

今のことについて、少しだけ申し上げます。

国の方が、第二期については予備機をたくさん買うようにおっしゃっていました。より予備機をたくさん買うことで、これまで渡ってこなかった先生方、全員にきちんと渡すことで、きちんと全員に連絡が渡るようにしてください。そのために予備機をたくさん買っていいと言ってくださったので、行政にお願いして、約11%とたくさん購入していただいたので、先生方に配付できるようになっております。

○佐藤教育委員

ありがとうございます。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。傍島副町長、よろしくお願いします。

○岐南町副町長

みなさん、改めましてこんにちは。岐南の副町長の傍島と申します。よろしくお願いします。林先生よりスライドとかビデオを見させていただきまして、学習の充実ということで、先ほど久野委員もおっしゃられましたけど、他者参照による学びの進化ということで、ここは非常に素晴らしいことだなと思いました。ただ1つ、懸念というか心配事がありまして、人の意見を聞いて自分の意見をまとめたり反対意見を考えたりっていうことは非常に重要なことであります。

しかし、最初に意見が言えるっていう人も、つくっていかないといけないとか、そこを通して自分からまず先に自分の意見を言えるようになるっていうことが最終目的みたいな感じはいたしますので、大人になってからも人の意見を聞かないと自分の意見を言えないのではなく、そこの考える過程ではいいんでしょうけど、自分の意見として、まず発信できるっていうこと。そういうことも少しは考えて、授業をしていただけるとすごくありがたいなと思います。あと今、プログラミングとか、教育の中で、学習支援の中であると思うんですけど、これからはA I活用っていうことでC h a t G P Tじゃないですけど、その使い方も子どもたちに学んでいただきたいなという思いもあります。またそのA Iを使う、良い点悪い点っていうのが必ずありますので、そこも教えつつ、何とかやっていただきたいなっていうことと、その反対に位置します対面教育、対面でしか本当にできないっていう教育も、大事にして事業を進めていっていただきたいなという思いがあります。

以上です。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございます。

続きまして村井笠松町副町長様、よろしくお願いします。

○笠松副町長

笠松町の市町長の村井と申します。

まず初めに羽島郡の教育 DX の展望については、林先生の方からご説明をしてくださしまして、目指すべき姿の中で、学校の実質であるとか、教員の立場からは質の高い働き方ということで、そのような仕組み改革に向けて取り組みをしていただいているということで、大変優位性の高い事業で、積極的に進めていただけたらと思います。

一方、その取り組みを進めていただく中で、佐藤委員もおっしゃられたんですけど、いろいろ科目によって、こういった手法だけで言い切れない部分があるんじゃないかなということで、一体どの科目のことで何をやってたんだろうかっていうことを素朴に思いながら拝見させていただきました。

そういった部分での観点で、やはりこれを使ったほうがいい教科とかいろんなことを考えて、今後そういう国の方とかいろいろ、現場での実践を踏まえて考えていかれる部分だと思いますけど、そういったことも着眼していきたいなと思います。

あともう1つですね、これも岩井委員が、「笠松町でペーパーレス会議、1つだけあったよ」っておっしゃってくださったんですけど、我々も「DX、DX」と町長と一緒に声高に

言っていますけど、なかなか進んでいないのが行政の現状でもあります。

最近我々も使えるところからタブレット等使って、いろんな会議をしているところです。

それで、職員の中や、学校の現場の先生方でも、そういった理解度とか習熟度とかいうことでもありますし、お子様の中でも理解の早い方とか、いろいろ差異があると思いますので、そういった方々のところにも十分配慮していただいているという意味では、先ほど林先生が仰ってくださったように、いろんなガイドブック等を作成していただけるということです。そのようなこともやはり経験と時間とともに浸透していく部分かなとは理解いたしますけど、学校現場全体として押し進めていけるような対応を適宜していただけたらと思います。

特に初期投入に応じて、柔軟に必要な対応をしていただけたらなと思いました。

あと全く違う話で、最近新聞なんか見ますと、学校の記事っていうのがたくさん載ってます。事故であったり、事件であったり、犯罪であったり、或いはこないだ中学校の生徒さんが起こしたような事件は課題であったりします。

先般ちょっと記憶に新しいところでは東京の立川の方で、侵入というか、襲撃的に近いような事案があったかと思います。

そんな記事を目にしますと、子どもの安全確保というのが、最優先であると思うんですけども、一方で先生をはじめとする教職員の方々が、学校現場で安心して働けるとか、或いは今回のように保護者のクレームなのか分かりませんが、一対一じゃなく、学校組織として対応して1人の先生が責任を背負い込むとか、何か1人で悩み込むっていうな形じゃなくて、学校の現場としてしっかり対応していただいて、教職員の方が安心して勤めることができるような、そういった学校環境の創出ということには、我々も同様でございますが、力になれることを精一杯やっていきたいと思いますし、その分野といった方も配置していただいている状況にもなっておりますので、学校がきっちりとした基準となることが必要になってくると思います。何かありましたら、行政として支援できる部分は支援して参りたいと思いますので、発言させていただきました。

以上です。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。

○ICT支援専門員

先ほど、傍島副町長様から生成AIの件が出ましたので、少しだけ説明しますと、令和7年2月の時点でも2回、二町教育委員会としての指針を全校に発信しまして、安全なこのサービスを準備して提供しているところです。

さらに、中学校においても、利用を進めていこうという動きがございまして、それを支えていこうと考えております。

もう1点ですけれども、先ほど、ロケーションフリーの話が出ましたが、我々はまず、ペーパーレスの会議ができるようにならなきゃいけないと思っています。岐南町の先生が笠松町の学校へ行っても、また、公民館へ行っても、この持ち寄った端末で授業ができるよ

うに、そのような整備面でも、今、お願いをしていこうと思っているところです。

笠松町の公民館と交流センターにおいては、どこの部屋も Wi-Fi が繋がるそうですので、あとは i P a d を設定したいと考えています。岐南町も是非よろしく願いしたいなと考えています。

以上です。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。

続きまして、羽島郡二町教育委員会の野原教育長、お願いいたします。

○野原教育長

今日はどうもありがとうございました。こうして、本当に子どもの成長というか、そういったものを、いろんな側面からですね、ご意見いただけることが、まず、教育に携わるものとして、非常に幸せだなと思って、今日聞かせていただきました。

様々な意見がございましたけれども、私は一昨日、東京の方で文科省の田村視学官の話を聞いてきたところで、I C Tの話もあったんですけども、そこで田村さんは現場をよく知ってらっしゃるので、深い学びについてすごく熱い語りをされました。深い学びをするには、もっともっと大事な文字、漢字、世論、ハラスメント等の言葉がありますけれども、それも単なる単語ではなくて、きちっとした文章で伝わるようにというところの力をつけていくこともサポートしたという話があります。力をつけていくために I C T活用というのはなくてはならないものであるということで、是非、お願いをしてくださいということも聞いておりました。よろしく願いいたします。

先程の音楽の話もそうですが、私も技術科の人間として、理解は頭の中でできる。ただ、深い学びというのは、言葉で話してもできないことはやはりあるわけで、言葉ではわかっていても実際に動ける。例えば技術で言うと、「かんなくて、こうやって使うんだよ」と言っても、かんなをかけられるかといったら、そうじゃないわけです。なので、本当の理解というのは、そうした体験というか、感覚というものに基づいたものであるし、それは人づくりであるし、地域の繋がりづくりになってくるのかなということを思っ

て聞かせていただきました。我々がやっていかなければならないのは、当然子どもの成長を願って指導していくわけですけども、望ましい町で子ども達を育てていくということができたらなと、改めて感じさせていただきました。

今日はどうもありがとうございました。

○事務局 こども学び課長

ありがとうございました。

では続きまして、古田笠松町長、お願いいたします。

○笠松町長

先ほど、笠松副町長もお話したように、笠松町ではDXに非常に力を入れています。ただ私が常日頃言っているのは、DXは手段であって目的じゃないと。DXというのはあくまでも課題を解決するために使うツールであると。DXをやるといかにも自分たちが先陣的なことをやってると思うんですけど、端的にはアナログ志向の人間がDXをやろうとしても、使いこなせるわけがありません。

あともう1つ、もうこれも先ほど笠松副町長の話から出ましたが、今日ここにお集まりの教育委員会の皆さんは、DXやGIGAスクールに非常に理解がありますし、また積極的に進められると思います。うちの職員もそうですが、一部に溢れかえっていて、ちょっと違和感を覚えて、或いは技能的な問題があります。ですので、DXを推進するのは、意識改革だと思います。

技術を導入するためにお金をかけて、最終的には現場の人間が使うわけです。それを忘れて、ただ入れたからあとは現場に任せっきりっていうのは、ちょっと。ある先生はものすごくDXで上手にやるけど、こっちの先生はなんかもたもたして、それなら紙の方がいいのはっていうようなことを、子どもだけでなく、子どもが家に帰って親に言うと、またそこで先生の評価が、勝手に決められてしまうということもある。これも丁寧な対応が必要だと。そして先ほど、AIの話が出ました。

先般、東京の本当のAIの事業者の方とお話する機会がありました。今、使っているAIは人工知能じゃない。あれは、グーグルを拡大して、いろんな情報を寄せ集めてそこでアレンジしてやってるんだから、これはAIといって人工知能で、コンピューターが考えてやってるわけじゃない。なので、情報がフェイクであったり、或いは適切じゃなかったりする。そこからきているということで何が言いたいかというと、今後は、アメリカ、中国等にある企業が先陣的にやっていくと技術はどんどん変わる。今の技術で授業していても、半年で変わってしまったときに教育現場がそれに追いつけるかどうかということで、それに流されてしまうという側、教える側に格差ができてしまうので、その技術の流れに惑わされることなく、羽島郡独自のものを決めて腹を据えて進めていただきたいなと思います。それが結果的にぶれない教育であり、ぶれないDXに繋がっていくというふうに思います。

ちょっとDXも入れられるんで少し強い言い方になりましたけど、やはりそこが大事であって、横並びにしないでいいです。僕の中でも、羽島郡笠松町・岐南町それぞれ自分たちのDXでやって、結果的にそれが子どもたちにとってプラスになればよいと私は思っていますので、どうぞそのように、林先生も自由に進めてください。

以上です。

○事務局 子ども学び課長

ありがとうございます。

後藤町長、よろしく願いいたします。

○岐南町長

様々な意見を聞かせていただいて、大変盛況だと思いながらも、今から社会が加速的に変

化をしていく中で、子どもたちが大人になったときに、一体どんな世界になっているのかなってというのが予測がつかないような昨今であるということを前提に考えたときに、先ほど古田笠松町長もおっしゃられたように、DXというのは、目的ではなくて手段であるということは、忘れてはいけないと思います。学校という場所は、私は小さな社会だと思っていて、嫌なこともあるし良いこともあるし、その学校という場所を卒業したその先には、もっと大きな社会が待っているわけですので、生まれてから、家庭で育って、それでいろんな場所を経験して社会に出ていく。その過程にあるのが学校というものなのかなと思っています。

一番大切にしたいことは、生きる力を育ててあげて、大事にして欲しいなと思っております。先般、ハラスメント研修を職員と一緒に受けまして、その中でもZ世代はこういうふうにと考えると、その方々に対する物の言い方の研修というものを受けたんですけれども、価値が多様である以上は、わかり合えるような対応なり、信頼関係を築いていかないと、誤解が生まれたり信頼関係が崩れてしまったりとか、そういうものがいわゆるハラスメントっていうところに繋がっているということだと思います。

ただ、今の若い人たちはやはり環境要因だと思いますけども、コミュニケーションの取り方が大きく変わってしまっているというのは、現実というか事実だと思います。できるだけ、学校環境の中では、先生だけでなく、地域の皆さんも入ってきていただけるようになりまして、人と人とのコミュニケーションを一番大切にしたいと思っています。

子どもと先生との時間を確保できるように、ツールを使って時間を確保するということも視野に入れながら、一番大切にするのは、子どもとの時間というふうになってくれるといいなと思っています。

あと、岐南町役場でもDXを進めていますけれど、やはり紙ベースで始まります。それをその校務支援システムに入力する、という形になっているのかなと思うんですけど、紙ベースで情報集約するということが中心になってしまうと、結局、最初の入口が紙だと、入力する人がすごく負担になってしまいます。行政の窓口とかも同じですけども、入口の部分の整備ができるのかできないのかは分かりませんが、負担軽減を具体的にやってあげると、先生たちの負担感がかなり減ってくるのかなと思います。ここに集約するのはいいんですけど、負担がかなりあるような気がしているので、そういう切り口でも改善できたらいいなと思います。DXについては、そのような思いですので、何か困難なことがあれば、先ほどの教育委員の話もそうなんですが、対話をする時間も時間がないとできないので、なかなか情報共有ができない。そのためにDXを活用したらいいのではと思いました。

以上です。

○事務局 子ども学び課長

本日は貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。本日の会議の記録につきまして、議事録を作成しまして、ホームページで公開させていただく予定になっております。

それでは以上をもちまして、令和7年度岐南町笠松町総合教育会議を閉会させていただきます。本日は皆様方にはお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。